

# ボンクリ・フェス2017 “Born Creative” Festival 2017

アーティストック・ディレクター：藤倉大(作曲家)

## 世界中の「新しい音」が聴ける 1dayフェス!

世界的に活躍する作曲家 藤倉大のボーン・クリエイティブな  
感性が異ジャンルの音楽をシャッフル!

東京芸術劇場で「世界中の新しい響き」の体験を!



藤倉大

©Seiji Okumura

### 「ボーン・クリエイティブ」、略して「ボンクリ」。

これは、「人間は皆、生まれつきクリエイティブだ」という意味。

数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、5歳から高校生までを対象に、世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等をみっちり紹介し、その場で子供達が新しい音楽の作曲をする。さらに全ての音や指示を楽譜にきちんと記し、作曲した作品はその場でプロの演奏家に演奏してもらう。子供達の作曲中、演奏家は、子供達が作品の一部を確認したり、コラボレーションしながら作曲のアイデアを楽譜にするためのサポートをし、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を何年か継続していてわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだということだ。

だが、なぜかそのクリエイティビティは成長するにつれ、失われていく。

5月4日に開催するこの「ボンクリ・フェス」は、大人になっても5歳の子供のように、クリエイティブでいる人達の作品を、0歳の子供から大人まで楽しめる新しい音楽に触れるためのイベント。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である雅楽も、エレクトロニクス(電子音楽)も、現代音楽アンサンブルもあり、ペルー音楽も、オーケストラ作品もある。丸1日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れる。

できるだけ多くの人に「新しい音楽」に触れて貰おうと、夜のスペシャル・コンサートのチケット価格は抑え、チケットがあれば、昼間のワークショップも無料で楽しめる。また、誰でも楽しめるアトリウムコンサートも開催するなど様々なイベントを行い、ジャンルを超えた「新しい音楽」に満ちた1日になる。

館内にはレストランなどもあるので、ゴールデンウィークのさなか、東京芸術劇場で1日中過ごすこともできる。一生分、少なくとも1年分の「世界中の新しい響き」を堪能することができるまたとない機会。5月4日は是非芸術へ!

文：藤倉大(作曲家)

## “Born Creative” Festival 2017 5月4日(木・祝) アーティストック・ディレクター：藤倉大

### ■スペシャル・コンサートのチケットで無料! ワークショップ

笹久保伸による『ペルー音楽の部屋』／ ※各ワークショップ定員あり  
檜垣智也による『リュック・フェラーリの部屋』／  
ヤン・バング&ニルス・ペッター・モルヴェルによる『ノルウェーの部屋』／  
クリア・チェイスによる『ポーリン・オリヴェロスの部屋』 ほか

### ■誰でも楽しめる! 無料アトリウムコンサート

出演：伶楽舎(雅楽アンサンブル)／福川伸陽(ホルン) ほか

### ■スペシャル・コンサート 17:30開演 コンサートホール

出演：アンサンブル・ノマド(指揮：佐藤紀雄)／伶楽舎／  
クリア・チェイス(フルート)／ヤン・バング(エレクトロニクス)／  
ニルス・ペッター・モルヴェル(トランペット)／  
小林沙羅(ソプラノ)／藤倉大(ピアノ&エレクトロニクス) ほか

料金：S席3,000円/A席2,000円

チケット発売：2月予定

詳細はHPへ

### スペシャル・コンサートの聴きどころ

藤倉大が幼少の頃から毎日のように聴いていた坂本龍一の名曲(thatness and thereness)を、藤倉が愛情を込めてオーケストレーションしたアンサンブル版の世界初演に加え、坂本の最新作(3つのトライアングルのための作品)のライブ版世界初演。大友良英の書き下ろし委嘱作品の世界初演、藤倉が人生で初めて聴いた現代音楽作曲家である武満徹の雅楽作品《秋庭歌一具》より《秋庭歌》、デヴィッド・シルヴィアンと藤倉との共同作曲が話題を生んだCDアルバム“died in the wool”からは小林沙羅による独唱でライブ版世界初演。ノルウェーのヤン・バングとニルス・ペッター・モルヴェルと藤倉による即興演奏、そしてクリア・チェイスをソリストに迎えての藤倉の〈フルート協奏曲〉など、脳内を刺激するまさに「ボンクリ」音楽が一夜に集結!

※ワークショップやコンサートの出演者、内容、曲目等は変更になる場合があります。  
主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



坂本龍一

大友良英

武満徹

デヴィッド・シルヴィアン

小林沙羅

ヤン・バング

ペッター・モルヴェル

クリア・チェイス

## 東京芸術劇場Presents クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会

3月5日(日) 15:00開演 コンサートホール

詳細はP13へ



有田正広

テウニス・ファン・デル・ズヴァルト

©Hikaru.S

指揮：有田正広 ナチュラルホルン：テウニス・ファン・デル・ズヴァルト 管弦楽：クラシカル・プレイヤーズ東京

ベートーヴェン/交響曲第1番 八長調 op.21、交響曲第2番 二長調 op.36 モーツァルト/ホルン協奏曲第4番 変ホ長調 K.495 主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## 東京芸術劇場 & ミューザ川崎シンフォニーホール共同企画 第6回音楽大学フェスティバル・オーケストラ

3月25日(土) 15:00開演 ミューザ川崎シンフォニーホール / 3月26日(日) 15:00開演 コンサートホール 詳細はP14へ



### 感動の予感!大編成の難曲に挑む音大選抜オーケストラ

首都圏9音大のフェスティバル企画には2本の柱がある。秋に行われる複数大学競演形式のもの、今回ご紹介する春の「合同オケ」だ。毎年9月になるとオーケストラのメンバーを決める会議が開かれる。各大学とも優秀な学生に参加させようと熱い編成会議となる。練習会場は毎年各大学持ち回りで施設を提供しあって協力。楽譜準備や設営を担うのはマネジメント系学生チーム。実行委員の先生指導のもと、弦楽器のパート譜へのボウイング付け作業などもこなす。そして演奏会当日。2日間にわたり客席形式や響き具合などが異なるホールで演奏に臨む。今回は熊本地震で被災した九州の2音大の学生4名も特別参加。復興への思いを演奏に込める。曲はドビュッシーとマーラーの難曲。特にマーラーの6番は高関マエストロが再校訂した楽譜を使用。音大生たちの高密度な熟演が楽しみだ。

文：吉田雅之

指揮：高関健 管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ(首都圏9音楽大学+九州2音楽大学選抜オーケストラ)

参加音楽大学：上野学園大学/国立音楽大学/昭和音楽大学/洗足学園音楽大学/東京音楽大学/東京藝術大学/東邦音楽大学/桐朋学園大学/武蔵野音楽大学/平成音楽大学(熊本)/大分県立芸術文化短期大学(大分)

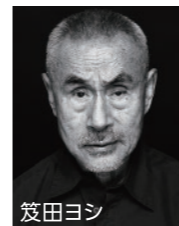
主催：音楽大学オーケストラフェスティバル実行委員会/  
東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/  
ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

ドビュッシー/交響詩「海」 マーラー/交響曲第6番 イ短調「悲劇的」

## 東京芸術劇場シアターオペラvol.10 全国共同制作プロジェクト プッチーニ/歌劇『蝶々夫人』《新演出》全幕

2月18日(土)・19日(日) 14:00開演 コンサートホール 日本語字幕付原語上演

詳細はP11へ



笈田ヨシ

### 世界的演劇人 笈田ヨシ、待望の本邦初オペラ演出!

指揮：ミハエル・バルケ 演出：笈田ヨシ

出演：蝶々夫人：小川里美(18日)・中嶋彰子(19日) / スズキ：鳥木弥生 / ケイト・ピンカートン：サラ・マクドナルド /

ピンカートン：ロレンツォ・デカロー / シャープレス：ピーター・サヴィッジ / ゴロー：晴雅彦 / ヤマドリ：牧川修一 / ボンゾ：清水那由太 /

役人：猿谷友規/いとこ：熊田祥子 / 管弦楽：読売日本交響楽団 / 合唱：東京音楽大学 ほか

※金沢、大阪、高崎公演あり

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 事業提携：読売日本交響楽団 共同制作：公益財団法人金沢芸術創造財団/関西テレビ放送/フェスティバルホール(朝日ビルディング)/公益財団法人高崎財団  
公益財団法人石川県音楽文化振興事業団/公益財団法人大阪フィルハーモニー協会/公益財団法人群馬交響楽団

## 芸劇 & 読響 0才から聴こう!! / 4才から聴こう!! 春休みコンサート

3月29日(水) 11:30開演(0才から入場可) / 13:30開演(4才以上対象) コンサートホール 各回入替制

詳細はP14へ



円光寺雅彦

山下牧子

### 世代をこえて楽しめる、50分間の本格派コンサート

指揮：円光寺雅彦 メゾ・ソプラノ：山下牧子 管弦楽：読売日本交響楽団 ほか (構成：吉田雅之)

ビゼー/歌劇「カルメン」から ハバネラ「恋は野の鳥」

チャイコフスキー/バレエ「白鳥の湖」から「四羽の白鳥の踊り」

スッパ/喜歌劇「軽騎兵」序曲 ほか

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 事業提携：読売日本交響楽団